

時間と空間

モノづくり

コトづくり

ヒトづくり

価値づくり

その他

常盤塾

2009年4月4日（土）

報告者：臼井千恵子

<テーマ>

日本人が忘れてしまったこと

<目次>ーバリ島訪問報告よりー

- I. バリの概要
- II. 生活の中に取り入れられた農業
- III. 祭事と文化
- IV. まとめ

## I. バリ概要

### 1. 人口・国土

東アジアのインドネシア共和国に属する島で、首都ジャカルタのあるジャワ島のすぐ東に位置する。周辺諸島と共に、第1級地方自治体であるバリ州を構成し、人口は約320万人。バリ・ヒンドゥーに根ざしている。1990年からはイスラム教徒の移民が目立っている。

### 2. 略歴

#### (1) 有史以前

- ・紀元前2000年 台湾起源のオーストロネシア語族が居住
- ・紀元前1世紀ごろから交易を介しインドや中国の影響を受ける  
⇒ドンソン文化の影響を受け、稲作を中心とした文化の定着
- ・4世紀のヒンドゥー・ジャワ時代  
⇒ヒンドゥー教に属するジャワの人々が往来  
⇒ジャワ王の支配下のもと発展を続ける
- ・西暦913年ごろ、スリ・クサリ・ワルマデアにより独自のワルマデア王朝ができる。

#### (2) ジャワ時代（西暦11～16世紀）

- ・ワルマデア王国（400年続く）
- ・マジヤパヒヒト王国
- ・ゲルゲル王国

#### (3) 群雄割拠による王国時代（西暦17～19世紀）

- ・クルンクル王国の他に7つの小国（タバナン王国、バドゥン王国、ギアニール王国、カランガムス王国、バンリ王国、ムンウィ王国）

#### (4) オランダによる植民地化とバリ・ルネッサンス (19世紀末 - 20世紀前半)

- ・オランダ人による植民地化→国際非難を浴び
- ・1917～1918年の災害 (地震、インフルエンザ、ネズミ)  
⇒バリ人によるバロン (善の神)、サンヒャン・ドゥダリ (憑依舞踊)  
伝統文化として、国際的な評価を高める。演劇活動がバリで活性化。  
音楽、舞踏、演劇の確立

#### (5) 第二次世界大戦と日本軍の占領統治 (1942 - 1945年)

- ・オランダからの解放者として迎えらる。しかし、間もなく反日運動が勃発

#### (6) イングラ・ライの玉砕とインドネシア独立 (20世紀中葉)

- ・動乱：スカルノ時代

#### (7) スハルト体制下の観光開発 (20世紀後半)

- ・観光開発による安定を迎える  
⇒「創られた伝統」をそのまま受け入れるのではなく、自らの伝統の価値に関心を持つようになり、画一的なイメージや「観光のまなざし」と向き合いながら、自身の文化を巧みに鍛え上げる。

## II. 農業と生活

### 1. 農業人口の減少

- ・1971年 農業人口 (66.7%)、商業・ホテル・飲食・サービス (18.8%)  
⇒2004年 農業人口 (35.3%)、商業・ホテル・飲食・サービス (36.4%)
- ・農業平均収入は5,000円、観光従事者は10,000円という現実
- ・しかし、「農業は職業ではなく生活の一部である」という意識が強いため、職業認知が薄い。農業は当たり前を守るもの。→変化と共に生きる

### 2. 生産物

- ・稲作中心
- ・ココナツ、コーヒーの他、果樹園ではバナナ、オレンジ、マンゴー、畑では大豆、さつまいも、落花生、キャベツ、トマト栽培が盛ん
- ・畜産：牛は神様で食べない  
⇒バリ牛はストレスがなく大事に育てられているのでおいしい。

## III. 祭事と文化

1. 「神々の島」とも形容されるバリ島では人々の90%がバリ土着の信仰とインド仏教、ヒンドゥー教の習合によるバリ・ヒンドゥー教を信仰している。

⇒自然環境信仰ともいふべき (アミニズム) →日本の八百万の神

2. 毎朝、店や家の前にチャナンというお供え物をする。島のどこかでは毎日、お祭りが

行われているほど、バリ人は信心深い。

3. この世は、バロン（善）の神とランダ（悪）の神が存在し、どちらかの勝利ということではなく、常に変化しながら存在する→日本の陰陽の思想

4. 方角による世界観

カジャ（山側）とクロッド（海側）の組み合わせで、上と下、優劣、清浄と不浄という象徴価値観を持っている→京都の町並み、江戸城と方角、皇居

5. ケチャやガムラン、舞踏も宗教的なものから発展した芸能である。

6. バリの国家が常に目指したのは演出（スペクタクル）であり、儀式であり、バリ文化の執着する社会的不平等と地位の誇りを公に演劇科することであった。バリの国家は、王と君主が興行主、僧侶が監督、農民が脇役という劇場国家であった。（Geertz 1980=1990）

このような儀式からバリの人々はストレスが少なく、精神的満足度が高いとされる。

#### IV. まとめ

##### 1. 日本が忘れてしまったものがバリにはあった・・・

①生きるということ

・農業の大切さ⇒世界で高い評価を得ているブランド力を誇りながら、食べ物のはほとんどは他国に頼る現実。

②共生

・日本はあまりにも、アメリカのマネジメントに傾き本来自分は何者だったのかを忘れてしまった。本来、日本とバリの自然や環境に対する考え方は類似している部分が多く学びが多かった。ストレス社会、社員のうつが多発、大企業病などは偏りすぎた結果ではないか。

③儀式の大切さ

・人の意識を結束させるには、儀式（コトづくり）が重要な役割を果たしていると感じた。殺伐とした成果主義や金銭的なインセンティブのみでは、人はどこかで行きづまる。心の満足がなくては、成就しない。生活や家族、文化、技術その融合が重要である。

##### 2. 提案

外国からの影響を上手く取り入れながら、独自の文化、技術を作り上げるバリに学び、日本の産業、農業も成長させていく必要がある。

①農業の大切さを理解し、生きる上で大事なことは何なのかを考える機会を多くつくること。

②本来の日本人としての考え方を思い起こし、独自のこづくり、ひとづくりをしていく。